



Youth Hostel Pick up

「新しいふるさと」がここにある サンゴの島に誕生した出会いの宿

ユースホステルKikai

空港からも近く、
のどかできれいなビーチもすぐ近くに 있습니다。

ユースホステル Kikai

鹿児島市から南におよそ380km、奄美大島からは東に25kmほどの洋上に浮かぶ、喜界島にあるユースホステル。鹿児島空港からは約1時間、奄美空港から約20分のフライトで喜界空港に降り立てば、そこからわずか徒歩3分でユースホステルKikaiに到着する。

〒891-6202 鹿児島県大島郡喜界町湾 500-8
☎0997-69-3839 <https://jyh.jp/info.php?jyhno=8721>




リーズナブルなドミトリールームは4名用の洋室と、3名用和室の2タイプ。一人旅からグループまで、肩ひじ張らずにくつろげる落ち着いた雰囲気。



爽やかなインテリアでまとめられたツインルームは、早めの予約がおすすめ。その他、館内にはシングルルームが2室ある。

お話を伺ったマネージャーの榮 禎二(さかえ・ていじ)さん。島の名士のひとりとして、喜界島の魅力を知り尽くした、頼れる存在だ。



奄美に浮かぶ隆起サンゴ礁の島に 新たなユースホステルが誕生

鹿児島空港を飛び立ったプロペラ機は、わずか数十分で着陸態勢に入る。徐々に高度を落としていき、エメラルドグリーンの海に囲まれた小さな島の滑走路に滑り込んだ。太平洋と東シナ海をつなぐ、8つの有人島からなる奄美群島。その最東端に位置するのがここ、喜界島だ。楕円形をした平坦な島内には、石灰岩でできた海岸段丘があちこちに見られる。実はこの島、サンゴ礁が10年以上前に海底から隆起して形成されたと考えられており、現在でも年間平均2mmのスピードで隆起。サンゴが作りだした石灰岩は土壌に豊富なミネラルをもたらし、日本一の生産量を誇るゴマや、黒糖の原料となるサトウキビなどを育

む。浅藍色と褐色の翅を持つ渡り蝶・アサギマダラや「南の島の貴婦人」と形容されるオオゴマダラなどが生息する、蝶の島としても知られている。

こうした貴重な地質と自然環境を持つ喜界島は、2025年に日本ジオパークに認定。美しいビーチやサンゴの石垣の景観、あるいは澄んだ海でのダイビングを目当てに、多くの観光客で賑わうこの島にこのほど誕生したのが「ユースホステル Kikai」だ。喜界空港から歩いて約3分。ビーチに近い立地もあり、早くも好評を博している。今回お話を伺ったのは、この宿のマネージャー・榮禎二(さかえ・ていじ)さん。生まれ育った喜界島で半生を過ごし、誰よりもその魅力を知る榮さんが郷土でユースホステル開業に至った経緯や、今後の宿の展望などについて語っていただいた。

リタイア後に高まった旅への情熱 旅雑誌で知ったユースホステルに惹かれて

「実は、私は若い頃にあちこちに旅行に行った経験はないんです。ずっと仕事をしてきたから…」
高校卒業後、父の経営する建設会社に入社し、事業を承継してがむしゃらに働いてきた榮さん。余暇を楽しむ時間は限られていたものの、仕事関係の仲間と赴く、たまの観光旅行が息抜きになっていたという。
「印象的なのは北海道。自然が豊かで美しく、登別温泉ではこの島にはない雪景色を初めて目にしました。行く先々で仲間とお酒を飲みながら語らうのが楽しみでしたね」
転職が訪れたのは15年ほど前。息子に事業を任せ、ようやく自

分の時間が持てるようになった。一念発起した榮さんはキャンピングカーを購入し、島の外へ足を運んだ。
「団体旅行とは違う、自分で先を決めて楽しむ旅をしてみたくて、それならキャンピングカーがいいなと思ったんです。鹿児島本土はもちろん、九州を一周したり、いろいろな土地を巡りましたよ」
地図や書籍を購入し、旅を「研究」するようになった榮さん。ある時、旅雑誌に載っていた記事を目にしたことで、ユースホステルの存在を知った。
「泊まったお客さんたちが、ダイニングで楽しく話しながら食事をして、仲良くなる。今ほどこのホテルに行っても、そういう知らない人同士の出会いはないでしょう。『ユースホステルっていいな』と思いました」

ゼロからのスタートで2年かけ開業 全館バリアフリー&サウナ付きの宿

旅館やホテルとは異なる、旅人同士がつながるユースホステルの魅力を知った榮さんにはいつしか、自分の宿を開きたいという思いが湧きあがった。もちろん宿を運営した経験はなく、ゼロからのスタートだった。

「宿をやるならユースホステルと決めていたので、まずは日本ユースホステル協会に相談して、話を進めていきました。ただ、難航したのは場所の選定。海のそばとか山の上とか、景色のきれいな場所が向いていると思ったんですが、小さな島なのでなかなか良い物件が見つかりませんでした」

そこで浮上したのが、榮さんの会社でかつてコンビニを営業していた建物だった。喜界町の中心市街地である湾(わん)地区に位置し、空港やフェリーターミナル、スーパーなども徒歩圏内にあり、利便性が高い。

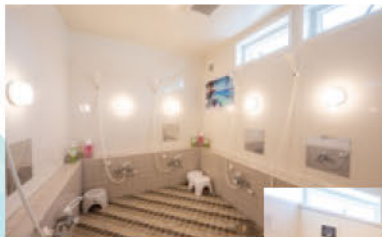
「宿から景色が見えるわけではないけれど、お客さんにとっては便利な場所。もともとあった建物に手を加えて、ユースホステルにすることを決めました」

準備や工事に2年間をかけ、2025年4月に念願のオープンを果たしたユースホステルKikai。全館バリアフリーの平屋建てで、老若男女問わず快適に過ごせる。客室は個室とドミトリーの2種類で、最大18名を収容可能だ。個室は1名用が2部屋に、2名用が1部屋。2段ベッドを配したドミトリーは3名用と4名用が2部屋ずつ用意されている。特徴的なのは、シャワールームと別に設けられているサウナ。島内での観光やアクティビティを楽しんだ後は、ここでじっくり汗を流して「ととのう」ことができる。



ユースホステルではレンタカーの貸出しも行なっている。詳細は予約時に確認を！

島唄を聴きながらのディナーが楽しめるライブハウス「Funky station SABANI」は、ユースホステルの目の前。



自慢のサウナが楽しめるのも魅力だ。



島でかいた汗をさっぱり流せる、真新しいシャワールーム。



開放感たっぷりのダイニングルームは、各地から来たゲストで賑わう。食事の提供はないが、地元の食材をキッチンで調理すれば「憧れの島暮らし」気分を味わえる。



榮さんが「飲み放題」という地酒の中に奄美のハブ酒を発見！

出会いと交流を楽しみながら のんびり過ごす島時間

館内施設の中でも、榮さんイチオシは、やはり宿泊者が集うダイニングだ。食事の提供はないが、島の食材を調達してキッチンで自由に調理したり、スーパーなどで購入した惣菜や弁当、飲み物などを持ち込むことができる。もちろん20歳以上限定だが、榮さんおすすめの島の焼酎も無料で提供されている。

「私も宿泊者の皆さんの輪に加わって、ここでわいわいやっていきますよ(笑)。お客さまからは『この宿でみんなと友達になれてよかった』と言ってもらうことが多いです。単なる観光だけではない楽しさがあるから『また行きたい』と思えるんでしょうね」

先に紹介したように、喜界島にはビーチやサンゴ礁などの絶景スポットも数多いが、ヤギ料理を提供するお店や、島唄や島踊りを楽しめるライブハウスなどで、島の文化にも触れてほしいと榮さんは語る。今後は、島を満喫できる宿泊者向けのツアーの企画を考えているそうだ。

旅先ではついつい予定を詰め込み、多くの観光名所を巡ることに一日を費やしてしまいがちだが、ゆるやかな時の流れに身を置き、人々の暮らしや、ありのままの島の姿に向き合う旅が、喜界島には合っているのかもしれない。

「一番は、この宿でゆっくり、のんびり過ごしてもらいたいですね。夜は島唄を歌い、島踊りをおどって、年齢関係なくみんなで交流して、ここを新しいふるさとのように思ってもらえたらうれしいです」

A ULU COFFEE



オーダーごとに焙煎する豆で淹れた、至極の一杯を味わえるULU(ウル)COFFEE。喜界島産の「ふすー」など、季節の島内産フルーツを使ったメニューも好評だ。

喜界町湾555-15

B 和食厨房 天晴



オーナー自ら喜界島の食材を仕入れて調理する島料理が自慢の天晴(あっぱれ)。ヤギ料理のほか、夜光貝やさく(長命草)など、旬の素材を生かした多彩な料理を楽しもう。

喜界町湾160-3
☎0997-65-3188

C 喰い処十兵衛



刺身や天ぷらを中心に喜界島の幸を堪能できる「島御膳」のほか、懐石料理・鍋料理など、豊富なメニューを提供するお店。チャーハン・酢豚など料理長特製の中華メニューも人気。

喜界町湾445-7
☎0997-65-3520



喜界島ってこんなところ！

37の集落に約6,200人の島民が暮らしている喜界島は、古くは琉球王国や薩摩藩の支配下にあった。先の大戦では本土防衛の前線とされたため甚大な被害を受け、戦後はアメリカ軍が統治。1953(昭和28)年ようやく本土復帰を果たし、1956(昭和31)年には現・喜界町が誕生した。以降、サトウキビ・ゴマを中心とした農業で栄え、島独自の伝統・文化も大切に受け継がれている。このページでは、そんな喜界島にあるユースホステルKikai周辺のグルメ・観光スポットをピックアップする。

喜界島おすすめSPOT

D Funky station SABANI



アットホームで温かな雰囲気ダイニングバー。ライブ開催時には、島人と一緒に島唄や島踊りを楽しめる。特製パンズを使った「サバニバーガー」など、フードも充実。

喜界町湾500-8
☎0997-65-0930

E スギラビーチ



約250mの白い砂浜が続くビーチ。4月下旬以降の海水浴のほか、SUPなどのマリンスポーツも可能だ。ここから望む、奄美大島に沈む夕日はまさに圧巻。

喜界町中里
☎0997-65-3683
(喜界町企画観光課)

F 荒木・中里遊歩道



さまざまな形のサンゴ礁や稀少な植物群落が見られる海岸沿いの遊歩道。見晴らしが良い荒木集落側の「ウリバマ広場」も、夕日の絶景スポットとなっている。

喜界町中里/荒木
☎0997-65-3683
(喜界町企画観光課)



ライブハウス「Funky station SABANI」で島唄&島踊りを楽しみながらのディナー付き！

抽選で **ペア宿泊券(1泊2日)1名様にプレゼント!**

応募は日本ユースホステル協会ホームページの専用お申し込みフォームから！

<https://jyh.jp/hm>

応募バ切:2026年4月末日

※当選者には応募専用メールに送付いたします。@jyh.jpからのメールが受信できるように設定をお願いいたします。

